



ほたる福祉通信

2021/10/15

008

発行：太陽と月社株式会社／特定非営利活動法人 岐阜福祉事業支援友の会 共同編集・発行
〒501-0222 岐阜県瑞穂市別府 1242-2 ほたるの里 1F phone：058-322-7788
URL：https://hotaru.fukushi.news e-mail：contact@hotaru.fukushi.news

2021(令和3)年8月24日(火)から9月5日(日)に開催された東京パラリンピック2020において、『WeThe15』というキャンペーンが提唱され、開会式では、ロゴが映し出され、メッセージが発表されました。これはIPC(国際パラリンピック委員会)を中心に国際障害同盟など複数の団体が関わって行なわれている運動です。世界の障がい者数は全人口の15%存在し、世界中の障がい者への偏見や差別をなくすための試みとして行なわれています。

全世界では12億人、全人口の15%の障がい者が存在する。障がい福祉は世界的な動き。

新型コロナの影響で、開催が一年延期された東京パラリンピック 2020 は、162 の国と地域並びに難民選手団で、参加人数は約 4400 人、共生社会の実現に向けて「多様性と調和」を掲げ、開催されました。

開会式の中で国際パラリンピック委員会 (IPC) のアンドリュー・パーソンズ会長は『WeThe15』に関して以下のよう

に述べています。私たちは世界を変えたい。そのために IPC と国際障害同盟とで『WeThe15』を立ち上げました。今後 10 年間にわたり、『WeThe15』は、世界の 15% にあたる何らかの障害を持つ人々がどのように認識され、扱われているのか、グローバルレベルで挑戦していきます。

20 の国際機関、市民社会、企業、メディアの支援を得て、世界の 12 億人の障害者をインクルージョンアジェンダの中心に据えます。(中略)

選手のみならずのパフォーマンスによってそれぞれの運命が変わるかもしれ

ません。しかし、最も重要なことは、みなさんが 12 億人の人生を永遠に変えることです。これこそが、人生やコミュニティを変革するスポーツの力なのです。変化はスポーツから始まります。そして明日から、パラリンピックアスリートは世界を変えるために再びスタートを切ります。

そしてさらに、アンドリュー・パーソンズ会長は閉会式において、以下のよう

に発言しています。よりよい形での再建を目指す中、世界人口の 15%を取り残すことはできないのです。

アスリートの向こうには、大変すばらしい活躍をした彼らの向こうには 12 億人の障がい者たちがいます。

彼らも、一市民として共生社会で活動したいと思い活動できるのです。それが ルードヴィッヒ・グッドマン卿というパラリンピック創始者の願いでした。

『WeThe15』を通してグッドマンのレガシーをさらに高めたい。グローバルなムーブメントを通しアクセスを可能にしキャンペーンを展開したいと思っています



※上：キャンペーンのロゴマークである 15% を示した紫の円グラフのアイコンとハッシュタグ。

※下：IPC が 21/08/19 より公開したプロモーション映像。出典：https://www.wethe15.org/ https://www.youtube.com/watch?v=gHCDvdCaJhI

す。今週、こう言いました。障がいを持つ人は認められるためにすごいことをしなくてもいいはずだと。スポーツで、扉は開けられました。今度は、私たち一人一人が私達を分断する障壁を打ち壊すときです。

東京パラリンピックの中継 TV 放送や Web サイトを通して放映されたキャンペーン映像では障害のある人を「特別な存在」または「感動的な存在」としてではなく、障害を持たない人々、いわゆる健常者と同じ課題を抱えた普通の人々とした上で、無視するのではなく、受け入れられるべき存在として紹介しています。

左図は『WeThe15』サイトの中で紹介されている「私たちの目的」とされる項目です。この中で使われている「インクルーシブ」とは「包み込むような／包摂的な」という意味であり、「仲間はずれにしない」、「みんないっしょに」という意味です。そして「ソーシャル・インクルージョン」とは「あらゆる人が孤立したり、排除されたりしないよう援護し、社会の構成員として包み、支え合う」という社会政策の理念を表した言葉であり、『WeThe15』の精神にも通じます。

WeThe15の最終達成目標

差別をなくし、世界の12億人もの障がい者の生活を変化させ、インクルーシブな社会の一員になるようにすること。

私たちの目的

- 1 障がい者一人ひとりを多様性とインクルージョンの中心に配置すること。
- 2 障がい者の社会へのインクルージョンを促進するため、今後10年間で、政府・企業・そして一人ひとりを対象としたさまざまな活動を実施すること。
- 3 障がい者のポテンシャルと行動を妨げている社会的・構造的な壁を取り払うこと。
- 4 障がい者への意識、視認性、認識の向上。
- 5 世界の社会的・文化的な誤った見方を正す社会のあり方を示し、障がい個人の問題ではなく、社会が作り出している壁という考えを浸透させること。
- 6 社会のインクルージョンを加速する手段の1つとしての、テクノロジーを推進すること。

※出典：「WeThe15 サイト」 https://www.wethe15.org/ja/the-campaign

日本における障がい者比率は7.6% 『WeThe15』の15%との 2倍差をどう考えるのか？

右図は厚生労働省が毎年発表している『厚生労働白書』に付随している「人口100人でみた日本」の図版です。

本紙でも何度か記載しているようにわが国における障がい者数は、全人口の7.6%とされています。この7.6%と世界における障がい者数である15%では、およそ倍の開きがあります。この2倍差をどう考えるべきなのでしょう？

わが国においては、障がい者数はあくまでも障害者手帳の発行数によってカウントしています。障害者手帳とは、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の3種の手帳を総称した一般的な呼称です。

わが国・日本においては、実際に障がいをお持ちの方でも、この3種の手帳のどれかが発行されていないと、障がい者としてカウントされていない事になります。

これまで本紙で紹介してきたように、例えば障がい児は毎年1万人超増加しています。また『8050問題』における「ひきこもり」と呼ばれる方々は、なんの認定もされておらず、もしかするとその方々の中にも一定割合の障がいをお持ちの方がいるかもしれません。これらを考えあわせた時に『WeThe15』の持つメッセージは、世界的な視点で、わが国の障がい福祉を見つめ直し、一日も早い世界レベルでの視座を持つべきであることを教えてくれています。

『東京パラリンピック』で感じた 障がい福祉の現場との違和感、 それを大事にしていきたい。

もう一つ、東京パラリンピックに関連して気づかされたことがあります。それは障がい福祉の現場にいる者として、パラリンピックだけで障がい者について語られることの違和感です。

障がい者とは、身体、知的、精神の3分類の方々を指します。しかしパラリンピックで紹介される選手の大半は身体の方々であり、一部、軽度な知的の方や精神の方も見受けられるものの、実際の障がい福祉の現場で向かい合っている方々とは異なる、という点です。

先に紹介したアンドリュー・パーソンズ会長の「変化はスポーツから始まります。」「スポーツで、扉は開かれました。今度は、私たち一人一人が私達を分断する障壁を打ち壊すときです。」というメッセージには、この違和感を乗り越え

人口100人でみた日本

日本を100人の国に例えてみました。
それぞれの最近の数字である。(平成29年～令和2年)

福祉・年金について

保育所に入所しているのは？ 2.0人

障害者は？ 7.6人

生活保護受給者は？ 1.6人

介護サービスを受けているのは？ 4.0人

国民年金の被保険者は？

第1号(自営業、学生等) 11.6人

第2号(サラリーマン、公務員) 33.6人

第3号(第2号被保険者の配偶者) 6.5人

老齢年金の受給者は？ 27.3人



※出典：『令和3年版 厚生労働白書 人口100人で見た日本』に補筆
<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/20-3/dl/01.pdf>

Founding Organisations



『WeThe15』に参加している団体：世界人口の15%を占める地球の12億人の障害者のために、現在から2030年までの変化を加速するために集まっているのは、IPC、スペシャルオリンピックス、Invictus Games Foundation、国際聴覚障害者スポーツ委員会(ICSD)、IDAです。、国連人権、ユネスコ、国連SDGアクションキャンペーン、欧州委員会、The Valuable 500、グローバルシチズン、グローバル障害イノベーションハブ、国連文明の同盟(UNAOC)、国際障害開発コンソーシアム、C-タレント、ATscale - 支援技術のためのグローバルパートナーシップ、ゼロプロジェクト、および支援技術組織のグローバルアライアンス(GAATO)。

※出典：『WeThe15』サイト <https://www.wethe15.org/>

る重要なヒントを投げかけているように思われます。

きっかけはパラリンピックかもしれませんが、それをきっかけに障がい者のこと、障がい者の置かれている環境や実態、障がい者の就労環境のこと、障がい福祉施策のこと、障がい福祉サービスのこと等々を少しでも知っていただき、「ノーマライゼーション」もしくは「ソーシャル・インクルージョン」とい

う「あらゆる人が孤立したり、排除されたりしないよう援護し、社会の構成員として包み、支え合う」という社会政策の理念が実現できるような社会になって欲しいと願います。

わが国の障がい福祉は、本当にまだ始まったばかりであり、大切に見守り、育てていく必要があります。皆様方におかれましても、さらなるご理解、ご協力、ご支援をお願いいたします。

障がい者グループホーム『ほたるの里』『ほたるの杜』の
最新空き室情報は以下のサイトで！

<https://hotaru.homes>



ほたる福祉通信

URL : <https://hotaru.fukushi.news>
e-mail : contact@hotaru.fukushi.news



211015

008